

三鷹市山本有三記念館リニューアルオープン記念企画展

山本有三、作家の遍歴



湯河原の家、門前の石畳にて 昭和40年頃



『死の舞踏』洛陽堂
大正5(1916)年



『情婦殺し』新潮社
大正15(1926)年

平成30年
4月1日(日) ↓ 9月2日(日)

開館時間：午前9時30分～午後5時

休館日：月曜日(月曜日が祝日の場合は開館)

※5月1・2日、7月17・18日は休館

入館料：300円(20名以上の団体200円)

- ・中学生以下、障害者手帳持参の方とその介助者、校外学習の高校生以下と引率教諭は無料
- ・「東京・ミュージアムぐるっとパス」利用者は無料





「無事の人」原稿



『波』朝日新聞社 昭和4(1929)年 装幀・挿絵 田邊至

山本有三「八八七一九七四」は、「路傍の石」等、長編小説の作者としての印象が非常に強い作家です。しかし、有三が長編小説を集中的に手掛けた時期は、昭和初期から10年代にかけてと、明治・大正・昭和という三つの時代を生きた人生に比すれば、さほど長い期間ではありません。

もともと有三は、小説家としてではなく、劇作家として作家人生を歩み出した人でした。大正期は社会派戯曲とも言えるべき「生命の冠」や「嬰兒殺し」といった作品によって注目を集め、昭和に差し掛かってようやく、本格的な長編小説の執筆を開始します。「波」や「路傍の石」などの新聞連載によって押しも押されぬ国民的作家として名を馳せましたが、戦後は、創作の世界から参議院議員へと転身を遂げています。文化委員長・文部委員長を歴任し、任期を終えた後は、長い空白期間を経て再び筆を執り、「濁流」の連載に取りかかりました。

本展では、それぞれの時代に積み重ねた有三の「遍歴」に焦点を当て、晩年の執筆活動へどのように結実しようとしていたのかを探ります。

春の朗読コンサート

風薫る爽やかな五月、
朗読と和楽器のハーモニーをお楽しみください。

日時：平成30年5月18日(金)、19日(土)
18:00～19:00 全2回公演

出演：野田香苗(朗読)、金子弘美(横笛)

定員：30名 ※入館券が必要です。

* プログラム等詳細は、決まり次第ホームページ等でお知らせいたします。



応募方法

往復はがきに①希望する公演日、②参加者氏名(2名様まで)、③代表者の住所・電話番号、④何を見て応募したか、⑤返信用はがきに宛先をご記入の上、当記念館「朗読コンサート係」までお送りください。

締切：4月26日(木)必着

* お1人様1応募限り。応募多数の場合は抽選となります。

会場・問合せ

三鷹市山本有三記念館

〒181-0013 東京都三鷹市下連雀2-12-27

電話：0422-42-6233

<http://mitaka-sportsandculture.or.jp/yuzo/>

電車 JR中央線「三鷹駅」南口より徒歩12分
JR中央線・京王井の頭線「吉祥寺駅」南口(公園口)より徒歩20分

バス 三鷹駅南口よりみたかシティバス「むらさき橋」下車徒歩2分
吉祥寺駅南口より小田急バス「万助橋」下車徒歩5分

ボランティアガイド

土・日・祝日の午後1時～4時に解説を行っています。
事前申込は不要ですので、お気軽に声をおかけください。



公益財団法人 三鷹市スポーツと文化財団
Mitaka City Sports and Culture Foundation